

襟裳岬

作詞：岡本おさみ 作曲：吉田拓郎

北の街ではもう 悲しみを暖炉で
燃やしはじめてるらしい
わけの わからないことで
悩んでいるうち

老いぼれてしまうから
黙りとおした としつきを
ひろい集めて 暖めあおう

襟裳の春は 何もない春です

君は二杯めだよね コーヒーカップに
角砂糖をひとつだったね
捨てて来てしまった わずらわしさだけを
くるくるかきまわして

通りすぎた 夏の匂い

想い出して 懐かしいね

襟裳の春は 何もない春です

日々の暮らしは いやでも やってくるけど
静かに笑ってしまおう

いじけることだけが 生きることだと

飼いならし すぎたので

身がまえ ながら 話すなんて

ああ おくびよう なんだよね

襟裳の春は 何もない春です

寒い友だちが 訪ねてきたよ

遠慮は いらぬから 暖まってゆきなよ